

アプローチショット②

グリーン周りからのショートアプローチです。ピンまでが近いので、104ページで説明した10～30ヤードのショットがベースになります。



POINT

打ちたい距離に応じたテークバックの大きさを実行しよう

ボールの落とし場所までの距離を見ながら素振りを繰り返すと、スイングの感じがつかめる



バックスイングとフォロースルーの大きさを左右対称にしよう

スイングの大きさに関係なく、トップスイングとフィニッシュは左右対称形が基本です。これは腰から下くらいの小さな振り幅でも同じです。たとえばピンまで20ヤードもアプローチの場面で、ボールを10ヤード上げて10

ヤード転がしたければ、ボールの落とし場所に集中し、10ヤードだけ飛ばすスイングを実行すればいいのです。テークバックが大きすぎると、「飛ばすすぎてしまう！」と本能的に感じ、インパクトが緩んでしまうのです。



スタンスを狭くし、両手を左モモの付け根の前でグリップ



テークバックよりもフォロースルーがやや大きくなるのは構わない



ピンが近いのにテークバックが大きすぎる人が多いので注意



インパクトで減速したり緩んだりしてザックリの結果となる